

講座の目的

中学校・高等学校の系統性を重視し、資料を活用する能力や統計的思考力、問題解決力の育成を図る授業づくりと、コンピュータを活用した指導法の研修を行い、その識見と指導力の向上を図る。

対象と定員

12名
(中・高12名・特支)

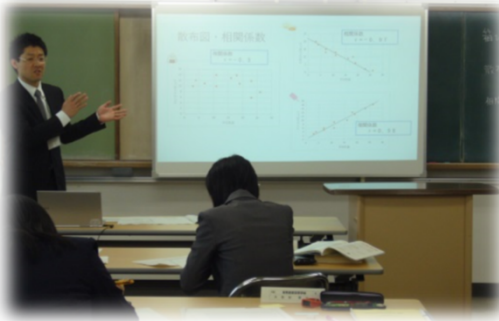
期日

平成30年10月16日(火)～17日(水)

研修内容

- 小中高における統計分野の学習内容について
- 統計的探究プロセス(PPDACサイクル)を重視した授業構想の在り方について
- ICTを活用した授業づくり
- 模擬授業 等

担当者からのメッセージ



「データを読み取り活用する能力をどう育成するの?」「問題解決力をどう育成するの?」「コンピュータを効果的に活用するにはどうすればいいの?」
このような先生方の悩みや疑問に答えます。

静岡大学教授の松元新一郎先生から、次期学習指導要領を見据えたこれからの統計教育の在り方について、分かりやすく解説していただきます。

受講者の感想から

- ・これから特に重要視される「データの活用」について、大変多くのことを学ぶことができました。
- ・データの分析に関しては授業をしたことがなく不安であったが、今回の研修を受けて、準備をしっかりと上で、早く生徒に授業を試してみたいと思いました。
- ・様々なデータを扱ったり、ICTの効果的な使い方をすることで、深い学びになるような授業を組み立てられると実感した。

